

観光地域づくり法人形成・確立計画

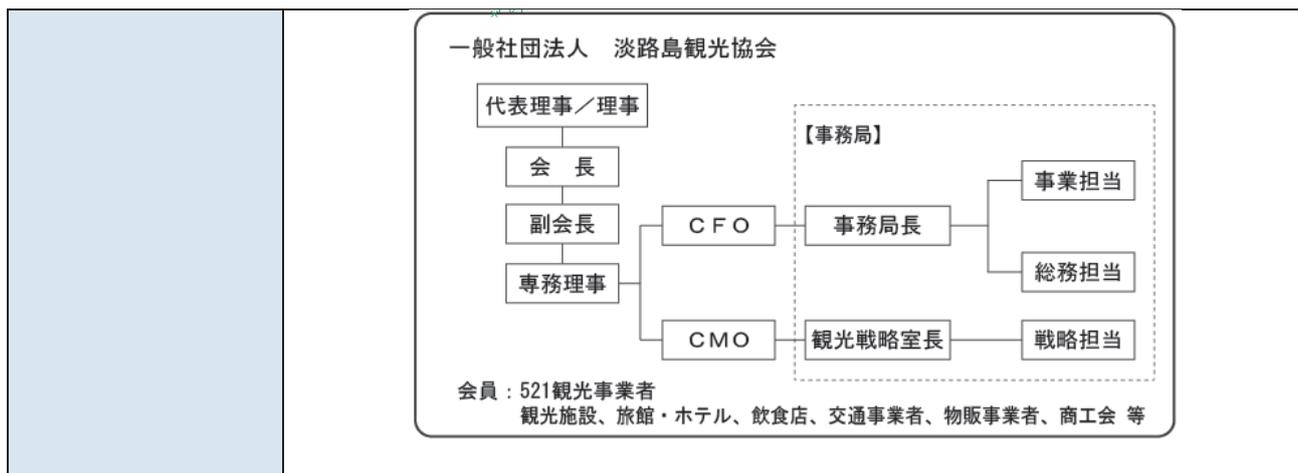
記入日：令和5年7月28日

1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分 該当するものを で囲むこと	広域連携DMO・ 地域連携DMO ・地域DMO	
観光地域づくり法人の名称	(一社)淡路島観光協会	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市	
所在地	兵庫県洲本市港 2-43	
設立時期	2010年4月1日	
事業年度	4月1日から翌年3月31日までの1年間	
職員数	19人【常勤9人(正職員5人・出向等4人) 非常勤10人】	
代表者(トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者) 必ず記入すること	(氏名) 木下 学 (一社)淡路島観光協会 会長 (出身組織名) (株)ホテルニューアワジ 代表取締役社長	(一社)淡路島観光協会の会長として、地域の様々なパイプ役となっており、様々な取組で成果を挙げている。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者(CMO：チーフ・マーケティング・オフィサー) 必ず記入すること	(氏名) 福浦 泰穂「専従」 (出身組織名) (一社)淡路島観光協会	平成24年4月に(一社)淡路島観光協会の事務局長に就任。 地域事業者とのパイプ役であり、旅行業務取扱管理者の資格や自らのシェフとしての経験を活かし、淡路島の観光振興に精力的に取り組んでいる。
	高木 俊光 (出身組織名) 個人事業主	1983年に株式会社JTBに入社し、2021年に退職するまで数々の部署で様々な役職を歴任。国内旅行に関わる仕入・企画・造成・システム構築に携わるとともに、地域の宿泊施設や観光事業者・行政等と連携した新たな着地型観光商品の開発等を通じて観光による地域活性化の推進に従事。 2022年4月より幅広い見識を生かし、淡路島のマーケティングに取り組んでいる。
財務責任者(CFO：チーフ・フィナンシャル・オフィサー) 必ず記入すること	(氏名) 福浦 泰穂「専従」 (出身組織名) (一社)淡路島観光協会	平成24年4月に(一社)淡路島観光協会の事務局長に就任し、持続可能な運営のため、運営収支や財源確保に関する検討を行っている。

各部門（例：プロモーション）の責任者（専門人材） 各部門責任者のうち専従の者については、氏名の右横に「専従」と記入すること	（氏名） 福浦 泰穂「専従」 （出身組織名） （一社）淡路島観光協会	平成 24 年 4 月に（一社）淡路島観光協会の事務局長に就任。 地域事業者とのパイプ役などを務め行政等との連携を図りながら、当協会が実施するプロモーションの中心的な役割を担っている				
各部門（例：旅行商品の造成・販売）の責任者（専門人材）	（氏名） 福浦 泰穂 （出身組織名） （一社）淡路島観光協会	平成 23 年 10 月 28 日に、国内旅行業取扱管理者試験に合格。淡路島観光協会の事務局長として培った経験と知識を生かし、旅行商品の造成や販売の責任を担っている。				
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	兵庫県 淡路県民局 交流渦潮室 （観光全般） 洲本市 産業振興部 商工観光課 （観光全般） 南あわじ市 産業建設部 商工観光課（観光全般） 淡路市 産業振興部 商工観光課 （観光全般）					
連携する事業者名及び役割	一般財団法人淡路島くうみ協会（イベント共催） 洲本商工会議所、南あわじ市商工会、淡路市商工会、五色町商工会（観光振興、飲食事業） 洲本飲食組合（飲食事業） 農業協同組合、漁業協同組合（農商連携） 洲本温泉事業協同組合（観光振興）等 5 2 1 観光事業者（協会会員数）					
官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	【該当する登録要件】 淡路島観光協会は、構成員として宿泊業・観光施設・観光土産品関係・商工業・農水産業・運輸業・エネルギー関係等の約 500 の会員を有しており、既に多様な関係者による合意形成がなされている。 また、意思決定機関として総会・理事会があり、理事会は兵庫県・島内 3 市の行政のほか、宿泊関係・観光施設・土産関係・運輸関係等の主な観光関係者で構成されており、事業推進にあたっての合意形成の仕組みを既に構成している。					
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	・令和 5 年 3 月に民学官一体となって新たな「淡路島総合観光戦略」を策定。戦略にもとづいて事業を展開している。 ・「淡路島おもてなしの心コンテスト」や「創作料理コンテスト」を開催し、観光業に従事する者のスキル向上やリーダー育成を図っている。 ・海ホテル、山ホテル鑑賞会事業等を通じて、鑑賞地の整備・清掃などを行うとともに、ガイドの育成を実施している。 ・“御食国あわじ”島グルメ事業により、民間が主体となり展開している“淡路島牛丼”“生しらす丼”など地域グルメを一堂に紹介する淡路島グルメガイドの作成や、「淡路島の豊富な食材」のより詳しい情報の掲載及びフォトコンテストを実施している。					
法人のこれまでの活動実績	（活動の概要） <table border="1" data-bbox="432 1682 1409 2022"> <thead> <tr> <th data-bbox="432 1682 619 1733">事業</th> <th data-bbox="619 1682 1409 1733">実施概要（2019年度）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="432 1733 619 2022">情報発信・プロモーション</td> <td data-bbox="619 1733 1409 2022"> 観光キャンペーン/キャラバン事業 ・はも道中（7月：京都） ・首都圏キャラバン（11月：東京） ・淡路島3年とらふぐ・水仙PR（12月：神戸）等 観光イベントの主催/出展 ・全国ふるさと甲子園への出展（8月：東京） ・ツーリズム EXPO ジャパンへの出展（10月：東京） ・食のリレーイベントの開催（9～11月：島内各地） </td> </tr> </tbody> </table>		事業	実施概要（2019年度）	情報発信・プロモーション	観光キャンペーン/キャラバン事業 ・はも道中（7月：京都） ・首都圏キャラバン（11月：東京） ・淡路島3年とらふぐ・水仙PR（12月：神戸）等 観光イベントの主催/出展 ・全国ふるさと甲子園への出展（8月：東京） ・ツーリズム EXPO ジャパンへの出展（10月：東京） ・食のリレーイベントの開催（9～11月：島内各地）
事業	実施概要（2019年度）					
情報発信・プロモーション	観光キャンペーン/キャラバン事業 ・はも道中（7月：京都） ・首都圏キャラバン（11月：東京） ・淡路島3年とらふぐ・水仙PR（12月：神戸）等 観光イベントの主催/出展 ・全国ふるさと甲子園への出展（8月：東京） ・ツーリズム EXPO ジャパンへの出展（10月：東京） ・食のリレーイベントの開催（9～11月：島内各地）					

	<p>島内主要宿泊施設インバウンド宿泊者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年： 54 千人 ・平成 28 年： 43 千人 ・平成 29 年： 37 千人 ・平成 30 年： 30 千人 ・令和 元年： 28 千人 ・令和 2 年： 0 千人 ・令和 3 年： 0 千人 ・令和 4 年： 0 千人
<p>実施体制</p> <p>地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。</p>	<p>【実施体制の概要】</p> <p>一般社団法人淡路島観光協会が母体となり、行政、宿泊飲食業者等の多様な関係者による合意形成や事業推進を行い、官民が密接に連携した運営を実施する。また、島内 3 市が個別に実施してきた事業についても統合し、淡路島一体となった観光プロモーション事業を展開する。</p> <p>【実施体制図】</p> <p>The diagram illustrates the implementation system. At the center is the '一般社団法人 淡路島観光協会 (地域連携 DMO)' with 521 members including tourism businesses, hotels, restaurants, and transport. It is supported by '淡路島日本遺産委員会' and '“御食国あわじ” 島グルメ事業実行委員会' as working bodies. Above, it collaborates with regional tourism organizations and media/travel agencies. Below, it coordinates with the '淡路島総合観光戦略' network adjustment meeting involving local governments and the island tourism association.</p> <p>(実施体制図) 令和 4.6.22 ~</p>



2 . 観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

淡路島内 3 市



【区域設定の考え方】

島という特性上、区域を構成する地方公共団体が個別に観光振興を行うより、島として一丸となり、旅行商品の開発・観光 PR 等の取組を実施する事により、効果的な誘客を図る事ができるため、当該県・市で連携した区域設定とするのが適切と考える。

【観光客の実態等】

- ・ 島内観光客入込数 (兵庫県観光客動態調査) 令和3年度数値 : 9,588 千人
- ・ 島内宿泊客数 (兵庫県観光客動態調査) 令和3年度数値 : 982 千人
- ・ インバウンド宿泊者数 (島内主要宿泊施設調査) 令和3年度数値 : 0 千人

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

観光施設	ウェルネスパーク五色、うずの丘大鳴門橋記念館、淡路ファームパークイングラントの丘、国営明石海峡公園、北淡震災記念館、淡路ワールドパーク ONOKORO、兵庫県立淡路島公園、パルシェ香りの館・湯、ニジゲンノモリ、HELLO KITTY SMILE 等
自然・風景	鳴門海峡の渦潮、あわじ花さじき、灘黒岩水仙郷、立川水仙郷、明石海峡大橋、大鳴門橋、諭鶴羽山、慶野松原、大浜海岸 等
歴史・文化	伊弉諾神宮、淡路人形浄瑠璃、洲本城、沼島 等
食	たまねぎ、レタス、淡路牛、はも、淡路島3年とらふぐ、鯛、しらす 等

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

- ・洲本市：34 施設 ・南あわじ市：48 施設 ・淡路市：39 施設
- 当協会会員事業者のみ

【利便性：区域までの交通、域内交通】

車で神戸から約 60 分、大阪から約 90 分と大都市近郊に位置し、マイカーによるアクセスは良い。

公共交通機関を使った来島手段としては、三ノ宮・舞子等からの高速バス移動となる。

域内交通は、島内路線バス・タクシー・レンタカーなどの2次交通手段があり、配車アプリ「Uber」によるタクシーの配車が可能である。

【外国人観光客への対応】

- ・HPの多言語化による発信
(英・繁体・簡体・韓国語に対応)
- ・多言語観光パンフレットの発行
- ・観光案内所4箇所に13カ国語対応のタブレット通訳機器を導入
- ・配車アプリ「Uber」による二次交通対策
- ・台湾・香港等での旅行社エージェント訪問、ファムトリップの実施
- ・海外現地メディアを活用したPR 等

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
島内観光入込客数	今後の観光施策の方針決定の参考となる重要な指数であるため	兵庫県観光客動態調査より収集
島内宿泊者数	同上	兵庫県観光客動態調査より収集
島内観光消費額	同上	兵庫県観光客動態調査より収集
インバウンド宿泊客数	同上	島内主要宿泊施設より報告
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度等を把握するため	Google アナリティクスを活用して収集

4. 戦略

(1) 地域における観光を取り巻く背景

地域経済、社会等の状況を踏まえた観光地域づくりの背景

淡路島の人口は、ピークであった1947年の22万7千人から、2023年4月末現在、12万8千人へと約4割も減少し、65歳以上の高齢者の割合も約38%と兵庫県内でも高い地域となっている。

しかし、このような厳しい状況にあっても、淡路島の経済は2014年以降成長に転じており、交流人口の拡大やブランド力のある元気な農水産業が島の経済を活性化している。また、これまで首都圏等の遠方やインバウンドの観光客の誘致を十分には行ってこなかったため、これからの「伸びしろ」も大いに残っている。

人口減少、超高齢化という縮小する市場での成長は、淡路島という小さなエリアだけで捉えると困難であるが、成長している外部経済を地域にうまく取り込むことができれば、持続的に地域が成長していくことが可能である。

これらの状況を踏まえ、観光地域づくり法人(DMO)を中心として既存の観光資源を活用した観光地域づくりを図り、遠方からの誘客やインバウンドの観光客の誘致を積極的に行い、交流人口の増加及び経済の活性化に繋げることとしている。

(2) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み (Strengths) <ul style="list-style-type: none"> ・国生み神話に彩られた歴史 ・人形浄瑠璃をはじめとする伝統文化 ・御食国と言われた豊富な食材 ・瀬戸内海国立公園・鳴門海峡の渦潮などの美しい自然 ・優れた泉質の温泉 ・神戸から60分、大阪から90分と大都市近郊のロケーション ・関西圏からの多くの日帰りリピーター客の来島 	弱み (Weaknesses) <ul style="list-style-type: none"> ・淡路島の認知度が関西圏に留まり、訪日外国人や首都圏等からの観光客(宿泊客)が極端に少ない。 ・休日に比べ、少ない平日宿泊客。 ・鉄道が無く、路線バスも少ない脆弱な2次交通 ・世界的・全国的な知名度を持つ観光名所が少ない。 ・施設等での多言語化やキャッシュレス化の遅れなど外国人受入環境が不十分

外部環境	機会 (Opportunity) <ul style="list-style-type: none"> ・近隣 (大阪・京都等) への訪日外国人観光客の大幅増 ・島外資本による観光開発など島内投資の増加 ・WORLD MASTERS GAMES 関西、大阪万博など訪日旅行者増が見込まれる大イベント ・高齢者の活躍 ・高齢者マーケットの増加 	脅威 (Threat) <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化のさらなる進展 ・人口の減少 ・労働力の不足
------	--	---

上記に加え、PEST分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入 (様式自由)。

(3) ターゲット

第1ターゲット層 関西圏からのリピーター客
選定の理由 淡路島の観光は関西圏からのリピーターが大半であり、今後も基盤となる顧客層である。さらにリピーター層を増加させるとともに F1 層の取り組みなど新たな顧客層の開拓が必要であると考え。
参考 2021年度に (一社) 淡路島観光協会が N T T タウンページに委託して実施した「淡路島国内観光客動態調査」によると、淡路島の旅行客は、居住地別で見ると、旅行客 TOP5 が兵庫県・大阪府・徳島県・京都府・香川県で、全て関西圏・四国圏。
宿泊客では、TOP5 が兵庫県・大阪府・京都府・愛知県・愛媛県と中京圏 (愛知県) がランクイン。
市区町村では、旅行客 TOP は明石市、宿泊客 TOP は西宮市で、TOP5 は全て兵庫県となっている。
取組方針 誘客テレビ・ラジオ CM の放送、新たな顧客層「F1 層 (20~34 歳女性層)」へ向けたプロモーションの実施、阪神間でのキャラバンや観光 P R イベントの開催を実施する事によりさらなる誘客促進を図る。
ターゲット層 首都圏・中京圏の長期滞在客
選定の理由 淡路島の宿泊施設は土日祝においては満室で空きが無い状態であるが、平日については、空きがある。そこが更なる観光振興のための伸びしろと考えているため、平日も宿泊が可能な長期滞在客をターゲットとする。 観光商圈を広げるにあたっては、まだ低いと言わざるを得ない、首都圏・中京圏への認知度向上が必要である。

< 参考 >

2021 年度に（一社）淡路島観光協会が N T T タウンページに委託して実施した「淡路島国内観光客動態調査」によると、関西圏・四国圏の来訪者が大半を占めるが、中京圏や首都圏からの来訪者が併せて約 40 万人おり、宿泊率が約 47% と高いことから、今後のターゲットとして増加が期待できる。

取組方針

首都圏 J R 主要駅へのデジタルサイネージ広告、首都圏での観光イベント、暮らし情報誌等メディアを活用した P R を実施する事により、首都圏・中京圏における淡路島の認知度を向上させるとともに誘客促進を図る。

ターゲット層

インバウンド（香港、台湾、シンガポール、欧米豪）

選定の理由

上記で記載したとおり、淡路島の平日の宿泊施設については、空きがある状態である。このことから、首都圏・中京圏に次いで、滞在（宿泊）が予想されるインバウンドをターゲットとする。

また、淡路島への来訪が期待できる訪日外国人観光客としては、現状分析〔2020 年度に（一社）淡路島観光協会が N T T タウンページに委託して実施した「淡路島訪日外国人動態調査」〕から京都や大阪に来訪して宿泊する FIT 層であり、その中でも訪日経験が豊富なりピーターが想定される。台湾・香港・シンガポール等の東南アジアは特にリピーターが多く、ゴールデンルート以外の地域へのニーズが高いことや、欧米豪に関しては、日本の歴史・文化に関心が非常に強いことからはじまりの島としての訴求力が強いと考えられるためターゲットに最適と考えられる。

取組方針

旅行博への出展や旅行社へのプロモーション等の海外現地での直接的な売り込みのほか、WEB や SNS 等も活用することにより、ツアーの造成及び淡路島の認知度向上を図る。

< 参考 >

「淡路島訪日外国人動態調査」より

国籍別ランキング

「旅行者」「日帰り客」「宿泊客」の全項目において、1 位「台湾」、2 位「中国」、3 位～5 位は「香港、韓国、米国」が混在、6 位以降は「対、オーストラリア、カナダ」と続く。

(4) 観光地域づくりのコンセプト

コンセプト	いのち輝く島 ~個性が輝き続ける未来島~ 知られる観光地から選ばれる観光地への転換
コンセプトの考え方	ひと、もの、文化、食等の淡路島に関わる多様な個性を「いのち」として育み、輝かせ、躍動させていくことにより、淡路島の魅力をさらに高めるとともに、「いのち」が交わり、支え合うことにより、「いのち輝く島」として、淡路島で生活する人々の豊かな暮らしの持続につなげていかなければならない。今後5年間の淡路島の観光振興を図るにあたっては、多様な個性が輝き続ける「いのち輝く島」をビジョン(めざす姿)として、「知られる観光地」から「選ばれる観光地」への転換を図ることを基本理念とし、その実現に向けて戦略を定め、戦略に基づいた行動を展開していく。

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 頻度が分かるよう記入すること。	戦略の共有方法について記入すること 一般社団法人淡路島観光協会は宿泊業・観光施設・観光土産品関係・商工業・農水産業などの多くの観光関係事業者が会員に加わっており、年間5回程度総会・理事会等で戦略の内容を共有している。 また、今後、自治会等の地域団体との戦略の共有について検討を行っていく。
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	一般社団法人淡路島観光協会の理事会・総会等において評価検証を行う他、おもてなしの心・創作料理コンテスト等のサービス維持・向上への取組も実施している。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション	SNSや多言語化対応のHP、観光パンフレットによる一元的な情報発信を行うとともに、海外での商談会への出展や首都圏でのプロモーションを実施している。

各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

6. KPI (実績・目標)

戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後3年間における明確な数値目標を記入すること。

既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去3年間の実績も記入すること。

(1) 必須KPI

指標項目		2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度
旅行消費額 (百万円)	目標	160,500 ()	174,700 ()	190,000 ()	190,000 ()	193,000 ()	196,000 ()
	実績	66,900 ()	93,200 ()	()			
延べ宿泊者数 (千人)	目標	1,730 ()	1,860 ()	2,000 ()	2,000 ()	2,002 ()	2,004 ()
	実績	747 ()	982 ()	1,229 ()			
来訪者満足度 (%)	目標	89.7 ()	90.6 ()	90.5 ()	91.0 ()	91.5 ()	92.0 ()
	実績	90.1 ()	91.6 ()	91.9 ()			
リピーター率 (%)	目標	87.9 ()	88.8 ()	89.7 ()	90.0 ()	90.5 ()	91.0 ()
	実績	78.5 ()	83.8 ()	74.7 ()			

括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

目標年次・数値については、淡路島総合観光戦略にあわせて設定した。

【設定にあたっての考え方】

旅行消費額

日帰り客・宿泊客の各消費額をもとに算出。

過去10年間の平均伸び率2%を参考に算出。

延べ宿泊者数

過去10年間平均宿泊率等をもとに算出。

コロナ禍を除外してもほぼ横ばいの状況であったため0.1%増を目標に算出。

来訪者満足度

1年以内に淡路島を観光に来られた人を対象にインターネット調査を実施し、前年数値の0.5%増を目標に算出。

リピーター率

1年以内に淡路島を観光に来られた人を対象にインターネット調査を実施し、前年数値の0.5%増を目標に算出。

(2) その他の目標

指標項目		2020 (R 2) 年度	2021 (R 3) 年度	2022 (R 4) 年度	2023 (R 5) 年度	2024 (R 6) 年度	2025 (R 7) 年度
Web サイトの アクセス状況 (回)	目標	- ()	2,326,000 ()	2,326,329 ()	2,396,000 ()	2,468,000 ()	2,542,000 ()
	実績	1,875,596 ()	2,390,541 ()	4,539,700 ()			
住民満足度 (%)	目標	74.0 ()	75.0 ()	76.0 ()	76.0 ()	77.0 ()	78.0 ()
	実績	70.2 ()	70.1 ()	55.2 ()			
観光入込客数 (千人)	目標	14,240 ()	14,630	15,000	13,000	14,000	15,000
	実績	8,043 ()	9,588 ()	12,815 ()			
外国人 宿泊客数 (千人)	目標	99 ()	122 ()	150 ()	150 ()	150 ()	150 ()
	実績	0	0	0			

括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値
各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

目標年次・数値については、淡路島総合観光戦略にあわせて設定した。

【設定にあたっての考え方】

Webサイトのアクセス状況：ホームページ等の充実を図り、年3%程度の増加を目標に設定。

住民満足度：兵庫県実施の「兵庫のゆたかさ指標」(9年間で約11%増)を参考に年1%増を目標とし算出。

観光入込客数：ひょうごツーリズム協会策定の「ひょうごツーリズム戦略」等の伸び率を参考にし、コロナ禍で減少した観光入込客数の実績を考慮して算出。

外国人宿泊客数：ひょうごツーリズム協会策定の「ひょうごツーリズム戦略」等の伸び率を参考にし、コロナ禍以前に設定した前の年の目標値を設定。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

少なくとも今後3年間について、計画年度毎に(1)収入、(2)支出を記入すること。
現に活動している法人にあっては、過去3年間の実績も記入すること。

(1) 収入

年(年度)	総収入(円)	内訳(具体的に記入すること)
2020(R2) 年度	319,604,538(円)	【県補助金・負担金】 50,494,410(円) 【市補助金・負担金】 227,298,394(円) 【その他負担金・委託金等】 14,197,378(円) 【会費収入】 11,164,280(円) 【事業収入】 11,120,450(円) 【雑収入】 294,124(円) 【収益事業収入】 5,035,502(円)
2021(R3) 年度	201,186,728(円)	【県補助金・負担金】 30,151,270(円) 【市補助金・負担金】 130,016,542(円) 【その他負担金・委託金等】 10,551,374(円) 【会費収入】 11,514,280(円) 【事業収入】 12,195,340(円) 【収益事業収入】 6,757,922(円)
2022(R4) 年度	135,139,561(円)	【県補助金・負担金】 19,853,488(円) 【市補助金・負担金】 75,671,608(円) 【その他負担金・委託金等】 5,482,858(円) 【会費収入】 11,477,170(円) 【事業収入】 13,109,395(円) 【収益事業収入】 9,545,042(円)
2023(R5) 年度	118,580,800(円)	【県補助金・負担金】 16,970,000(円) 【市補助金・負担金】 64,160,800(円) 【その他負担金・委託金等】 7,190,000(円) 【会費収入】 10,800,000(円) 【事業収入】 12,810,000(円) 【収益事業収入】 6,650,000(円)
2024(R6) 年度	118,000,000(円)	【県補助金・負担金】 16,900,000(円) 【市補助金・負担金】 64,000,000(円) 【その他負担金・委託金等】 7,000,000(円) 【会費収入】 10,800,000(円) 【事業収入】 12,800,000(円) 【収益事業収入】 6,500,000(円)
2025(R7) 年度	118,000,000(円)	【県補助金・負担金】 16,900,000(円) 【市補助金・負担金】 64,000,000(円) 【その他負担金・委託金等】 7,000,000(円) 【会費収入】 10,800,000(円) 【事業収入】 12,800,000(円) 【収益事業収入】 6,500,000(円)

(2) 支出

年 (年度)	総支出	内訳 (具体的に記入すること)
2020 (R 2) 年度	312,680,708 (円)	【誘客促進事業】 194,807,001 (円) 【広報・宣伝事業】 21,324,750 (円) 【観光基盤整備事業】 70,116,785 (円) 【人件費】 15,548,290 (円) 【収益事業費】 8,598,287 (円) 【その他】 2,285,595 (円)
2021 (R 3) 年度	192,790,446 (円)	【誘客促進事業】 94,603,945 (円) 【広報・宣伝事業】 12,520,621 (円) 【観光基盤整備事業】 48,882,867 (円) 【人件費】 25,230,967 (円) 【収益事業費】 9,197,083 (円) 【その他】 2,354,963 (円)
2022 (R 4) 年度	128,941,531 (円)	【誘客促進事業】 37,296,984 (円) 【広報・宣伝事業】 12,885,951 (円) 【観光基盤整備事業】 48,511,512 (円) 【人件費】 13,126,656 (円) 【収益事業費】 10,425,726 (円) 【その他】 6,694,702 (円)
2023 (R 5) 年度	118,580,800 (円)	【誘客促進事業】 38,920,000 (円) 【広報・宣伝事業】 9,450,000 (円) 【観光基盤整備事業】 30,080,800 (円) 【人件費】 32,000,000 (円) 【収益事業費】 6,650,000 (円) 【その他】 1,780,000 (円)
2024 (R 6) 年度	118,000,000 (円)	【誘客促進事業】 38,500,000 (円) 【広報・宣伝事業】 9,500,000 (円) 【観光基盤整備事業】 30,000,000 (円) 【人件費】 32,000,000 (円) 【収益事業費】 6,500,000 (円) 【その他】 1,500,000 (円)
2025 (R 7) 年度	118,000,000 (円)	【誘客促進事業】 38,500,000 (円) 【広報・宣伝事業】 9,500,000 (円) 【観光基盤整備事業】 30,000,000 (円) 【人件費】 32,000,000 (円) 【収益事業費】 6,500,000 (円) 【その他】 1,500,000 (円)

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

- ・会費収入
 - ・自主事業収入 (広報誌広告掲載、食品や物産品の販売 等)
 - ・国、県、島内 3 市等からの補助金・負担金
- 上記の財源により安定的な運営資金の確保を図る。

8 . 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

設定対象区域の都道府県及び市町村が、本法人を当該都道府県・市町村における観光地域づくり法人として認める旨を含む意見を記入すること。

県・3市・当協会が合意に基づき、DMOを全面的にバックアップしていくことで合意している。

9 . マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携DMO（県単位以外）や地域DMOと重複する場合の役割分担について（重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携DMOや地域DMOとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】

10 . 記入担当者連絡先

担当者氏名	藤永 泰生
担当部署名（役職）	観光戦略室（課長）
郵便番号	656-0027
所在地	兵庫県洲本市港 2-26 洲本市健康福祉館 1F
電話番号（直通）	0799-22-0742
F A X 番号	0799-24-4470
E - m a i l	y-fujinaga@awaji-kankou.or.jp

11 . 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	兵庫県淡路県民局
担当者氏名	山内 喜夫
担当部署名（役職）	交流渦潮室（室長）
郵便番号	656-0021
所在地	兵庫県洲本市塩屋 2-4-5
電話番号（直通）	0799-26-2040
F A X 番号	0799-24-6934
E - m a i l	Yoshio_Yamauchi@pref.hyogo.lg.jp

都道府県・市町村名	洲本市
担当者氏名	西畠 和孝

担当部署名(役職)	産業振興部 商工観光課(課長)
郵便番号	656-8686
所在地	兵庫県洲本市本町 3-4-10
電話番号(直通)	0799-24-7613
F A X 番号	0799-23-0978
E - m a i l	kazutaka_nishibatake@city.sumoto.lg.jp

都道府県・市町村名	南あわじ市
担当者氏名	土居 正典
担当部署名(役職)	産業建設部 商工観光課付課長 万博・観光戦略室(室長)
郵便番号	656-0492
所在地	兵庫県南あわじ市市善光寺 22-1
電話番号(直通)	0799-43-5221
F A X 番号	0799-43-5321
E - m a i l	masanori_doi@city.minamiawaji.hyogo.jp

都道府県・市町村名	淡路市
担当者氏名	牧部 幸司
担当部署名(役職)	産業振興部 商工観光課(課長)
郵便番号	656-2292
所在地	兵庫県淡路市生穂新島 8
電話番号(直通)	0799-64-2542
F A X 番号	0799-64-2530
E - m a i l	koji_makibe@city.awaji.lg.jp

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】

兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市

【設立時期】 2010年4月1日

【設立経緯】 区域の観光協会がDMOに移行

【代表者】 木下 学

【マーケティング責任者(CMO)】 高木 俊光

【財務責任者(CFO)】 福浦 泰穂

【職員数】 19人(常勤9人(正職員5人・出向等4人)、非常勤10人)

【主な収入】

補助金・負担金・委託金(県・市など) 約100百万円(4年度決算)

【総支出】 事業費 74百万円、一般管理費 55百万円(4年度決算)

【連携する主な事業者】

一般財団法人淡路島くうみ協会、商工会議所、各市町商工会、農業協同組合、漁業協同組合 など

KPI(実績・目標)

記入日: 令和5年7月28日

()内は外国人に関するもの。

項目		2020 (R2)年	2021 (R3)年	2022 (R4)年	2023 (R5)年	2024 (R6)年	2025 (R7)年
旅行消費額 (百万円)	目標	160,500 ()	174,700 ()	190,000 ()	190,000 ()	197,000 ()	197,000 ()
	実績	63,700 ()	93,200 ()				
延べ 宿泊者数 (千人)	目標	1,730 ()	1,860 ()	2,000 ()	2,000 ()	2,050 ()	2,050 ()
	実績	747 ()	982 ()	1,229 ()			
来訪者 満足度 (%)	目標	89.7 ()	90.6 ()	90.5 ()	91.0 ()	91.5 ()	92.0 ()
	実績	90.1 ()	91.6 ()	91.9 ()			
リピーター率 (%)	目標	87.9 ()	88.8 ()	89.7 ()	90.0 ()	90.5 ()	91.0 ()
	実績	78.5 ()	83.8 ()	74.7 ()			

戦略

【主なターゲット】

関西圏からのリピーター客

首都圏、中京圏

インバウンド(香港、台湾、シンガポール、欧米豪)

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】

誘客テレビ・ラジオCMの放送、阪神間でのキャラバンや観光PRイベントの開催。

観光イベントやメディアを活用したPRにより、首都圏・中京圏における淡路島の認知度を向上させるとともに誘客促進を図る。旅行博への出展や旅行社へのプロモーション等の海外現地で直接的な売り込みを行うことにより、ツアーの造成及び淡路島の認知度向上を図る。

【観光地域づくりのコンセプト】

知られる観光地から選ばれる観光地への転換

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】

- ・淡路島おもてなしの心コンテストの開催
- ・創作料理コンテストの開催
- ・食のリレーイベントの開催
- ・体験プログラムの開発



【創作料理コンテスト】

【受入環境整備】

- ・レンタサイクル運営事業
- ・島内各地の観光案内所運営事業
- ・観光従事者の育成

【情報発信プロモーション】

- ・ファムトリップの実施
- ・プロモーション動画の作成
- ・HPやSNS等による情報発信



【淡路島プロモーション動画】